

であいこうか

信楽焼の窯元を
縁の下から支える女将さん
信楽窯元散策路おかみさんの会

谷井 祐子さん



「おかみさんの会」は、2010年に開催された「第1回信楽まちなか芸術祭」後に発会しました。窯元散策路付近の窯元が、もっと信楽の本当の姿を知ってもらいたいと結成した「窯元散策路のWA」の女将さんたちによって立ち上げられました。同会代表の谷井さんに話をうかがいました。

◆設立のきっかけは？

既に窯元散策路の魅力を広げようと近辺の窯元の後継者で結成された「窯元散策路のWA」が、活動を始めていたので、その女将さんたちで何かできることはないかと思いました。散策路内のポケットパークにきれいなお花を植えたのが最初の活動ですね。

◆現在の活動は？

私たちは、女性ならではのソフトな雰囲気作りをしていきたいと思い、活動しています。5月には、おかみさんの会独自のイベントとして「窯元でアートなお茶会」を企画しました。

メンバーは皆、仕事や家事に忙しいのですが、女将さんたちが一堂に会する場ができたことによって横のつながりが生まれ、他所のことを考える余裕ができてきたことで、まちなか全体、信楽全体と広い視野で考えられるようになってきました。

◆では、今後は活動を広げて？

まだまだ始まったばかりだというのが正直な考えです。今は、活動を広げていくよりも自分たちの足元を固めて普通の生活をする中で、訪れていただいた方が信楽のファンになってもらえるようなおもてなしができるようにしたいと思っています。その為に、市外へ視察に行ったり、異業種、他団体と交流したり、そのお手伝いをしてみたり、自分たちが楽しめる形で地道に活動を充実させていきたいと考えています。

私たちだけでなく、皆さんの力を結集して、このまちにきたらどこかで誰かが何かをやっているような楽しいまちになってほしいと願っています。



◀窯元散策路で談笑する窯元の女将さんたち

大雨被害にボランティア集結

台風18号被害災害復旧

一刻も早い災害からの復旧を支援しよう、と、訪れた人々は、フェイスブックで声をかけあった大学生や一般の社会人など様々で、仕事や休暇予定を返上して、災害支援に駆けつけていただきました。支援を受けた住民の「遠方に暮れていた所を助けていただき、感謝の言葉もありません」との言葉に、大学生ボランティアは「これは遊んでいられないと思った。来て本当に良かった」と声を詰まらせていました。



▲土砂をかきわけ溝を作るボランティアの皆さん

台風18号に伴う大雨により大きな被害を受けた信楽町で被災直後より、災害ボランティアの皆さんによる支援活動が行われました。市が、社会福祉協議会と協力し運営する甲賀市災害ボランティアセンターの窓口には、

「地域に根付いた企業が魅力です」

甲賀JOBフェア

市内の企業や事業所が一同に会する合同就職面接会「甲賀JOBフェア」が18日、碧水ホールで開催され、約150人の新卒学生や若年求職者が会場を訪れました。この面接会は、市がハローワーク甲賀と協力し、求職者の就業支援、市内企業の活性化を目的に企画したもので、初の開催となります。会場には、25の企業や事業所がブースを構え、リクルートスーツ姿の求職者がお目当ての企業を訪ねたり、多業種の話や聞くためにブースを転々とするなどし、人事担当者の説明に熱心な眼差しで聴き入っていました。



▲企業ブースで面談する求職者

元気なまちかど

正しい知識で認知症の予防と見守りを

認知症キャラバン・メイト交流会

市が事務局として主催する認知症キャラバン・メイト交流会が3日、水口福祉センターホールで開かれ、約50人が参加しました。メイトの皆さんは、正しい知識を持ち、認知症の方やその家族を偏見を持たずに暖かく見守る「認知症サポーター」を養成するため、地域の皆さんに対して養成講座を開いています。この交流会では、普段旧町単位の活動する皆さんが、今まで開いてきた講座の経験や方法をお互いに共有できるよう全員の前で各々プレゼンテーションを行いました。限られた時間の中で専門的な医療用語が登場し、内容が難しくなりがちな講座について、オリジナルの紙芝居を作るなど様々な工夫が発表され、参加者も他地域の持つアイディアに感心した表情で耳を傾けていました。



▲日ごろの活動内容を共有

見守る観客を幽玄の世界に誘う

日雲神社太鼓踊り奉納

太鼓踊りの奉納が7日、信楽町牧の日雲神社境内で行われ、およそ100名の見物客が集まりました。「牧の太鼓踊り」は、県無形民俗文化財に選択されていますが、少子高齢化などで担い手が少なくなる中、日雲神社太鼓踊り保存会と鼓友会が小学生などを対象に後継者育成に尽力し、この伝統を今に継承しています。静謐な夜の境内でかがり火を中心に輪になった一行は、音頭に合わせ太鼓をリズムよく叩き、五穀豊穡や雨ごいの踊りを次々に舞い、奉納を見守る観客を幽玄の世界に誘いました。なお、20年に一度実施の伊勢神宮式年遷宮奉祝祭において10月27日(日)、同神社内宮での太鼓踊りが、県を代表して奉納されることになっています。



▶境内のかがり火を中心に

フィリピンの小さな島の村「シンカラン」との交流

シンカラン村交流事業報告会

フィリピンの小さな島の村「シンカラン」との交流事業の報告会が8日、自主活動センターきずなで行われ、約20名が参加しました。今回、報告を行ったのは立命館大学の国際ボランティアサークル「BOPEPIN」の皆さんです。同団体は、6年前から本事業を進める市内在住の西川さんらとともに渡航し、現地の皆さんと一緒にデイケアセンターや、貯水槽の設置に携わりました。現在は、地元素材のマンゴーを使ったジャムなどを開発販売するプロジェクトを進めています。学生の一人は「日本では知ることができないことを知れて、視野がとても広がりました。また、シンカランの人の優しさに触れて心が熱くなりました」と嬉しそうに話してくれました。



▲地域の皆さんに活動内容を発表する学生たち